

令和7年12月

各位

北九州市保健福祉局長 武藤 朋美

北九州市高齢者等実態調査への協力について(お願い)

日ごろから北九州市の保健福祉行政にご理解をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、北九州市では、高齢者等の保健福祉に関する意識やニーズを把握するため、標記の調査を実施することといたしました。この調査は、高齢者をはじめとした市民の皆様が、住み慣れた地域や家庭で安心して暮らしていけるよう、今後の高齢者福祉施策の推進に役立てるためのものです。

つきましては、ご多用のところお手数をおかけいたしますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

***4ページ以降の調査項目に直接ご記入後、同封の返信用封筒にて、切手を貼らずに**

令和7年12月31日(水)までにご返送(投函)いただきますようお願い申し上げます。

*調査の対象となられた方は、令和7年10月1日現在、北九州市内にお住まいで介護保険の要支援・要介護認定を受けておられる65歳以上の方から、無作為に抽出させていただきました。

*お答えいただいた内容につきましては、調査結果の統計の目的以外に使用することは一切ございません。また、調査票の取り扱いは秘密を厳守し、個人が特定されることはございません。

*調査対象者ご本人に聞き取りの上、ご家族の方等にご記入いただいても構いません。

◇同封の書類 ・調査票(在宅高齢者用) 1部
・返信用封筒 1枚

《この調査に関するお問合せ先》

○調査に関すること(調査の目的と方法、調査票の記入方法、調査票の提出方法)

株式会社 プラスアドグループ (担当:木下)※北九州市がこの調査を委託しています

〒803-0812 北九州市小倉北区室町二丁目10番4号

電話番号:093-562-6630 [月~金曜日(祝日を除く)。10時~12時・13時~17時]

FAX:093-583-8880

(高齢者等実態調査担当)

北九州市保健福祉局長寿社会対策課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1 電話番号:582-2407

北九州市高齢者等実態調査

《令和 7 年12月調査》

在宅高齢者用

*この調査票は、65歳以上(令和 7 年10月1日現在)の方を対象としています。

*調査票の記入にあたって

- ①記入にあたっては、黒または青インクのペンまたはボールペンを使用してください。
- ②各設問の当てはまる番号に、○をつけてください。

以下の内容については、調査対象者ご本人がお答えください。なお、ご記入は、ご家族の方等による代筆でもかまいません。

*最初に、調査対象者ご本人(要支援・要介護の高齢者)のことについて、おたずねします。

問1 あなたの性別についてお聞かせください。

いずれか一つに○。

- 1 男 2 女 3 無回答

問2 あなたの年齢はどちらにあたりますか。

いずれか一つに○。

- 1 65～69歳 2 70～74歳
3 75～79歳 4 80～84歳
5 85～89歳 6 90～94歳
7 95～99歳 8 100歳以上

問3 あなたのお住まいの区はどちらですか。

いずれか一つに○。

- 1 門司区 2 小倉北区 3 小倉南区 4 若松区
5 八幡東区 6 八幡西区 7 戸畑区

問4 あなたの要介護度はどちらにあたりますか。

いずれか一つに○。

- 1 要支援1 2 要支援2 3 要介護1 4 要介護2
5 要介護3 6 要介護4 7 要介護5

問 5 介護が必要な状態となった主な原因は何ですか。

いずれか一つに○。

- 1 脳血管疾患(脳出血、脳こうそく、くも膜下出血など)
- 2 心臓病
- 3 糖尿病
- 4 呼吸器疾患(肺炎、ぜんそくなど)
- 5 パーキンソン病
- 6 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症、腰痛症など)
- 7 膠原病(関節リウマチ含む)
- 8 リウマチ以外の関節疾患(変形性関節疾患など)
- 9 認知症
- 10 転倒などによる骨折
- 11 高齢による衰弱(廃用性症候群など)
- 12 悪性新生物(がん)
- 13 その他()
- 14 不明

問 6 あなたの世帯状況を教えてください。

あてはまるものすべてに○。

- 1 配偶者(あるいはパートナー) と同居
- 2 親(配偶者の親を含む。) と同居
- 3 子(子の配偶者を含む。) と同居
- 4 孫(孫の配偶者を含む。) と同居
- 5 その他(親族以外も含む。) と同居
- 6 同居者はいない

問 7 現在お住まいの住居の種類はどちらに該当しますか。

また、次の選択肢のうち、「3」と答えた場合は、市営住宅などの公営住宅にお住まいか、民間の住宅にお住まいかについてもお答えください。

※持ち家は家族名義分も含みます。

いずれか一つに○。

- 1 一戸建て(借家)
- 2 一戸建て(持ち家)
- 3 アパート、マンション等の共同住宅(借家) →

<u>いずれか一つに○。</u>
1 市営住宅などの公営住宅
2 民間の住宅
- 4 アパート、マンション等の共同住宅(持ち家)
- 5 その他()

【健康・医療】

問 8 「かかりつけ医」を決めていますか。

いずれか一つに○。

- 1 決めている
- 2 決めていない

問9 「かかりつけ歯科医」を決めていますか。

いずれか一つに○。

- 1 決めている 2 決めていない

☆「かかりつけ歯科医」とは☆

普段から、歯科治療や歯科健診、予防処置、歯みがき指導等を受けたり、歯や口の健康について気軽に相談したりできる歯医者さんのことです。

問 10 あなた自身や身近な家族(親や配偶者など)の病気の名前や飲んでいる薬の情報、また、利用している介護サービスなどの医療・介護情報について、救急搬送の際や入院した際、新しく病院にかかった際に説明することができますか。

いずれか一つに○。

- 1 自分自身も家族についても、間違いなく説明できる
2 自分自身は説明できるが、家族については不安がある
3 自分自身も家族についても、説明にやや不安がある
4 自分自身も家族についても、説明できない

問11 あなた又はあなたのご家族が、心身の機能低下により、立ち座りや歩行など日常生活に不自由さが生じたとき、リハビリテーションについて医療・介護関係者に相談していますか。

いずれか一つに○。

- 1 相談している
2 相談していない
3 不自由なことがなく相談する必要がない
4 わからない

問 12 日頃から信頼できる人と人生会議(ACP)をしていますか。

いずれか一つに○。

- 1 はい 2 いいえ

☆人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)とは☆

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組のことです。

問13 仮に、あなたが末期がんや進行性の疾患など治る見込みがない病気と診断され、余命6か月(もしくはそれより短い期間)と告げられたとした場合、どこで療養することを希望されますか。

いずれか一つに○。

- 1 最期まで自宅で療養したい ⇒問14 へ
- 2 できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい
- 3 なるべく早く医療機関に入院したい
- 4 老人ホームなど介護施設で療養したい
- 5 その他()⇒問14 へ

} ⇒副問1 へ

副問1 【問13で「2,3,4」と答えた方におたずねします】

「自宅」以外を選択した理由は何ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 自宅では家族に介護の負担がかかると思うから
- 2 自宅では必要な医療や介護が受けられないから
- 3 自宅で最期を迎えることができるという想像ができない(イメージがわからない)から
- 4 自宅で療養すると、費用がかかると思うから
- 5 病院等の専門機関で治療を受けたいから
- 6 その他()

問14 日常生活において、会話やテレビの音が聞こえづらいと感じますか。

いずれか一つに○。

- 1 感じる ⇒副問1・2 へ
- 2 感じない⇒問15 へ

副問1 【問14で「1」と答えた方におたずねします】

聞こえづらいことで、生活に変化がありましたか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 特に生活に変化はない。
- 2 家族や知り合いとの会話が減った。
- 3 外出することが減った。
- 4 沈んだ気持ちになることが多くなった。
- 5 その他()

副問2 【問14で「1」と答えた方におたずねします】

聞こえについて、病院(耳鼻咽喉科など)を受診したことがありますか。

いずれか一つに○。

- 1 受診した
- 2 受診していない ⇒副問3 へ
- 3 その他()

副問3 【副問2で「2」と答えた方におたずねします】

それはなぜですか

いずれか一つに○。

- 1 受診するまでの必要は感じていないから。
- 2 受診する時間がなかったから
- 3 補聴器や聞こえを助ける機器(スピーカー、イヤホン等)を使っているから。
- 4 病院に行っても良くならないと思ったから。
- 5 その他()

【介護予防(フレイル予防)】

問15 健康づくりや介護予防(フレイル予防)のために、日ごろから取り組んでいることはありますか。

☆「フレイル」とは☆

加齢に伴い筋力や心身機能が低下した状態(健康な状態と介護が必要となる状態の間)のことです。

いずれか一つに○。

1 ある ⇒ **副問1・2**へ

2 特にない ⇒ **副問3**へ

副問1 【問15で「1」と答えた方におたずねします】

健康づくりや介護予防(フレイル予防)のために、日ごろから取り組んでいることは何ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 休養や睡眠を十分にとる
- 2 規則正しい生活を送る
- 3 栄養バランスの取れた食事をとる
- 4 定期的に健康診断を受ける
- 5 酒やたばこを控える
- 6 散歩や体操など定期的な運動を続ける
- 7 口や歯の手入れをこまめに行う
- 8 よく噛んで食べる
- 9 できるだけ外出をして、友人・知人との交流機会をもつ
- 10 気持ちをなるべく明るくもつ
- 11 ボランティアなどの社会活動に積極的に参加する
- 12 その他()

副問2 【問15で「1」と答えた方におたずねします】

地域の会合、運動・趣味の会の活動などの「通いの場」への参加頻度を教えてください。

いずれか一つに○。

- 1 週3回以上
- 2 週1~2回
- 3 月1~3回
- 4 年に数回
- 5 参加していない

副問3 【問15で「2」と答えた方におたずねします】

それはなぜですか。

あてはまるものすべてに○。

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1 興味・関心がない | 2 体力や気力がない |
| 3 どのようなことに取り組んでよいかわからない | 4 時間的な余裕がない |
| 5 金銭的な余裕がない | |
| 6 その他() | |

【生きがい・社会参加】

問16 現在、市内では多くの高齢者が、様々な活動の担い手として活躍されています。
今後ますます高齢化が進む中、社会貢献についてどのように考えますか。

いずれか一つに○。

- 1 積極的に社会貢献したい
- 2 自分のできる範囲で社会貢献したい
- 3 高齢者に負担をもとめるべきではない
- 4 その他()

【医療や福祉、介護などの情報収集】

問17 医療や福祉、介護などについての知りたい情報を日頃、何から得ていますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 ケアマネジャーやヘルパーなどの介護関係者から
- 2 かかりつけ医などの医療関係者から
- 3 行政や関係の団体が作成するチラシやパンフレットなどから
- 4 区役所や地域包括支援センターなどの窓口での相談から
- 5 民生委員・児童委員や地域の役員などから
- 6 友人や知人から
- 7 「市政だより」から
- 8 新聞やテレビ、雑誌などから
- 9 インターネットやSNSなどから
- 10 その他()

【デジタル活用】

問18 あなたが使用しているデジタル機器を教えてください。

あてはまるものすべてに○。

- | | | |
|--------------------|---|-------|
| 1 スマートフォン | } | ⇒副問1へ |
| 2 タブレット端末 | | |
| 3 パソコン | | |
| 4 携帯電話(スマートフォンを除く) | } | ⇒副問2へ |
| 5 何も使っていない | | |
| 6 その他() | | ⇒問19へ |

副問1 【問18で「1, 2, 3」と答えた方におたずねします】

どのような用途で利用していますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 メールやチャットアプリ(LINE など)での連絡
- 2 インターネットなどでの情報収集
- 3 SNS を活用した情報発信や交流
- 4 動画配信サービスなどでの動画視聴
- 5 写真や動画の撮影・編集
- 6 キャッシュレス決済を利用
- 7 インターネットショッピング
- 8 健康管理アプリなどでの健康管理
- 9 国や自治体の電子申請、電子申告など
- 10 その他()

副問2 【問18で「4, 5」と答えた方におたずねします】

あなたがデジタル機器を活用していない理由を教えてください。

あてはまるものすべてに○。

- 1 利用する必要性を感じないから
- 2 操作が難しすぎるから
- 3 教えてくれる人がいないから
- 4 安全性や信頼性(セキュリティ)に不安がある
- 5 通信費や機器などにお金がかかりすぎる
- 6 どんなものかわからない
- 7 その他()

問19 北九州市では、「福祉用具プラザ北九州」をリニューアルし、令和7年11月に「テクノケア北九州」を開設しました。ここでは、福祉用具だけでなく、介護ロボットや、声やアプリで家電を動かす便利な機器など、生活をサポートする新しい道具を展示しています。そこでおたずねします。

ふだんの生活や健康のために、テクノロジー(生活を助ける新しい機器や仕組み)を使ったことがありますか？

いずれか一つに○。

- 1 よく使っている
- 2 時々使っている
- 3 使ったことがあるが、うまく使えなかった
- 4 興味はあるが、まだ使ったことはない
- 5 名前や存在は知っているが、よく分からない
- 6 知らない・使ったことがない

【地域との関わり・支援の状況】

問 20 介護や病気などで困ったときに、相談できる人はどんな方ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 家族や友人・知人
- 2 ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者
- 3 区役所や地域包括支援センターなどの行政関係者
- 4 民生委員・児童委員や福祉協力員などの地域の役員
- 5 その他()
- 6 相談できる人はいない

問 21 ふだん、近所で親しく付き合っている人はいますか。

いずれか一つに○。

- 1 何か困ったときに助け合える親しい人がいる
- 2 お互い訪問し合う程度の人がある
- 3 立ち話をする程度の人がある
- 4 あいさつをかわす程度の人がある
- 5 ほとんど付き合いはない
- 6 その他()

【終活】

問 22 終活についておたずねします。

あてはまるものすべてに○。

- 1 終活についてすでに準備している
- 2 終活について相談したいと思っている
- 3 終活について関心がある
- 4 終活とはどのようなものか知っている
- 5 終活という言葉聞いたことがある
- 6 知らない
- 7 その他()

☆「終活」とは☆

人生の終わりに向けての事前準備をしながら、これまでの人生を振り返り、残りの人生を自分らしく生き、自分らしい最期を安心して迎えるための活動で、終末期や亡くなった後の葬儀、お墓、財産の整理、身の回りの生前整理などを行うことです。

問23 北九州市では、市民の皆様が安心して終活に取り組めるよう、社会福祉協議会と連携して、令和7年11月に、総合相談窓口「終活あんしんセンター」をウェルとばたに開設しました。終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。

あてはまるものすべてに○。

- 1 何から手をつけて良いか分からない
- 2 いつから始めたら良いのか分からない
- 3 身近に相談したり、頼ったりする人がいない
- 4 終活への十分な資力がない
- 5 将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安
- 6 安心できる民間事業者をどのように見つけたら良いか不安
- 7 終活の内容を事前に伝える人がいない
- 8 その他()
- 9 不安はない

【認知症】

問 24 認知症施策推進基本計画(令和 6 年 12 月閣議決定)に記されている「新しい認知症観」を知っていますか。

いずれか一つに○。

- 1 内容も言葉も知っている
- 2 内容は知らないが、言葉は知っている
- 3 内容も言葉も知らない

☆「新しい認知症観」とは☆

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方のことです。

問 25 「MCI(軽度認知障害)」について知っていますか。

いずれか一つに○。

- 1 内容も言葉も知っている
- 2 内容は知らないが、言葉は知っている
- 3 内容も言葉も知らない

☆「MCI(軽度認知障害)」とは☆

ご本人やご家族に認知機能低下の自覚があるものの、日常生活は問題なく送ることができている状態のことです(健常な状態と認知症の中間の状態)。

問26 「認知症」と聞いて、最初に思うことはどのようなことですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない
- 2 どこに相談に行ったらよいかわからない
- 3 どのような生活を心がけていけば、予防できるのかわからない
- 4 家族に迷惑をかけそうで心配である
- 5 「認知症」に対応した介護が受けられるかどうか心配である
- 6 「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である
- 7 「認知症」になっても、自分の財産などを管理できるか心配である
- 8 「認知症」のことについて、あまりよく知らない(正しく理解できていない)
- 9 その他()
- 10 特に何も思わない

問27 仮に、あなたのご家族が、認知症になった場合に、あなたはどのようなことを心配だと思いますか。また、現在、認知症のご家族がいる方はどのようなことを心配だと感じていますか

あてはまるものすべてに○。

- 1 身体的・精神的な負担が大きいのではないか
- 2 自分自身が介護できなくなったらどうしていけばよいか
- 3 経済的に苦しくなるのではないか
- 4 家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか
- 5 自分(あなた)や大切な思い出を忘れてしまうのではないか
- 6 病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないか
- 7 不要なものを大量に購入させられたり、詐欺的な勧誘の被害に遭ったりするのではないか
- 8 買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか
- 9 他人の物を壊したり、危害を加えてしまうのではないか
- 10 特に心配はない
- 11 その他()

問28 認知症の取組として、北九州市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり
- 2 医師や介護サービス事業者などの専門性の向上
- 3 認知症の人の権利や財産を守る制度の充実
- 4 認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組
- 5 入所できる施設の充実
- 6 認知症の正しい理解を広め、認知症のよき理解者を増やす取組
- 7 認知症の本人や家族の意見を聞く取組
- 8 介護する家族同士の交流会など、家族の精神的な負担を軽減する取組
- 9 認知症カフェの充実など、認知症の人やその家族の居場所づくりの取組
- 10 認知症の人が他人の物を壊したり、危害を加えてしまった場合の補償制度の整備
- 11 その他()

【虐待・権利擁護】

問29 虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安がありますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 不安はない | 2 どちらかといえば不安は感じない |
| 3 どちらかといえば不安を感じる | 4 不安を感じる |
| 5 どちらともいえない | 6 その他() |

問 30 成年後見制度を知っていますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1 よく知っている | 2 少し知っている |
| 3 よく知らないが聞いたことがある | 4 全く知らない |

☆「成年後見制度」とは☆

認知症や知的障害などの理由で判断能力が不十分になった場合に、成年後見人等が本人に代わって、財産の管理や介護サービスの契約などを行い、法的に本人を支援する制度です。

問 31 「成年後見制度」については下記の窓口などで相談に応じてくれます。知っているものはどれですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 区役所、地域包括支援センター
- 2 北九州市成年後見支援センター
- 3 社会福祉協議会
- 4 法テラス
- 5 弁護士会
- 6 司法書士会
- 7 社会福祉士会
- 8 行政書士会
- 9 税理士会
- 10 その他()
- 11 知らない

【介護保険制度】

問34 ご家族やご親族による介護は週にどのくらいありますか。(同居していない家族やご親族からの介護も含みます。)

いずれか一つに○。

- 1 ない
- 2 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
- 3 週に1～2日ある
- 4 週に3～4日ある
- 5 ほぼ毎日ある

問35 現在、介護保険のサービスを利用していますか。

いずれか一つに○。

- 1 利用している ⇒問36へ
- 2 利用していない ⇒**副問1**へ

副問1 【問35で「2 利用していない」と答えた方におたずねします】
介護保険のサービスを利用していない理由は何ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 介護サービスがなくても自分で生活できるから
- 2 病院などに入院しているから
- 3 家族の介護や介護保険以外のサービスで間に合うから
- 4 利用料を支払うことが困難だから
- 5 手続き方法などが分からないから
- 6 病気への感染が心配だから
- 7 その他()

問36 介護が必要な人を家族だけで支えるのではなく、社会全体で支えることを目指してつくられた介護保険制度について、どのようにお考えですか。

いずれか一つに○。

- 1 よいと思う
- 2 どちらかといえばよいと思う
- 3 どちらかといえばよくないと思う
- 4 よくないと思う

【保健・福祉サービスの利用】

問37 現在よりも、さらに介護が必要な状態になったとき、どこで生活することを希望されますか。

いずれか一つに○。

- 1 介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で生活したい
⇒副問1へ
- 2 ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい
⇒副問1へ
- 3 食事や生活支援、医療など、ニーズに応じたサービスを受けることができる有料老人ホーム等で生活したい⇒副問2へ
- 4 食事・入浴・日常生活の介助等の介護を受けることができる特別養護老人ホーム等で生活したい⇒副問2へ
- 5 その他()⇒問38へ

副問1 【問37で「1,2」と答えた方におたずねします】

介護が必要な状態になったとき、自宅で暮らし続けるためには、どういったことが最も必要だと思いますか。

いずれか一つに○。

- 1 家族の協力
- 2 地域における助け合い
- 3 入浴や食事などの介助を行うヘルパーや、デイサービスなどの介護サービス
- 4 NPO・ボランティアなどが行う生活援助サービス(見守り、買い物、家事援助、配食など)
- 5 医師による往診や緊急時に入院できるなどの医療体制が整っていること
- 6 自宅の改修や改築(段差の解消、手すりの設置など)
- 7 その他()

副問2 【問37で「3,4」と答えた方におたずねします】

その理由は何ですか。

いずれか一つに○。

- 1 介護に協力できる家族がないから
- 2 家族はいるが仕事などのため介護に協力できそうにないから
- 3 家族に迷惑をかけたくないから
- 4 専門的な介護が受けられ、安心できるから
- 5 その他()

問38 現時点での施設への入所・入居の検討状況についてご回答ください。

いずれか一つに○。

- 1 入所・入居は検討していない⇒問39へ
- 2 入所・入居を検討している⇒**副問1**へ
- 3 すでに入所・入居申し込みをしている⇒**副問1**へ

副問1 【問38で「2、3」と答えた方におたずねします】

入所・入居を検討している施設は、どのような施設ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 特別養護老人ホーム
- 2 介護老人保健施設
- 3 介護医療院
- 4 グループホーム
- 5 住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅
- 6 その他()

【負担に対する考え方】

問39 高齢化の進展に伴い、介護保険サービスの量が増え、介護保険料も上がっていくことが見込まれています。この状況に対する、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。

いずれか一つに○。

- 1 保険料が上がっても良いので、今の介護サービスの量を維持すべき
- 2 保険料を今のままにするため、介護サービスの量を少し減らすべき
- 3 保険料を下げるため、介護サービスの量をもっと減らすべき

【生活環境】

問40 現在のお住まいで困っていることがありますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 手すりになかったり、段差があるなどバリアフリー化されていない
- 2 防犯・防災設備が不十分
- 3 家賃、税金、住宅維持費などの経済的負担が重い
- 4 その他()
- 5 何も問題は感じていない

問41 外出や移動のときに最も困っていることは何ですか。

いずれか一つに○。

- 1 駅や道路などに段差や階段が多い
- 2 駅や路上の案内表示などが分かりにくい
- 3 公共交通機関が近くになく不便である
- 4 その他()
- 5 特に困っていることはない

問42 外出する際に最も多く使用する移動手段は何ですか。

いずれか一つに○。

- 1 自分が運転する自動車
- 2 同居家族が運転する自動車
- 3 別居の家族や知人が運転する自動車
- 4 JR、バスなどの公共交通機関
- 5 タクシー
- 6 徒歩、自転車
- 7 その他()

【暮らし向き】

問43 現在の暮らし向きは、どうですか。

いずれか一つに○。

- 1 家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている
- 2 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている
- 3 家計にゆとりがなく、多少心配である
- 4 家計が苦しく、非常に心配である
- 5 その他()

問44 保健・医療・福祉関係(医療費・介護サービス費等)のサービスに対して支払っている、おおよその金額(月額)はどのくらいですか。

いずれか一つに○。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 1万円未満 | 2 1万円以上3万円未満 |
| 3 3万円以上5万円未満 | 4 5万円以上10万円未満 |
| 5 10万円以上 | 6 その他() |

【意識・高齢者】

問45 あなたは、一般的に何歳頃から「高齢者」だと思いますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|--------------|---------|
| 1 60歳以上 | 2 65歳以上 |
| 3 70歳以上 | 4 75歳以上 |
| 5 80歳以上 | 6 85歳以上 |
| 7 年齢では判断できない | |

【高齢者に対する福祉施策】

問46 今後、さらに高齢化が進んでいく中で、北九州市はどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 健康づくりや介護予防に関連した事業の充実
- 2 高齢者の生きがいづくりや仲間づくりの支援・社会参加の促進
- 3 認知症高齢者対策の充実
- 4 財産管理や成年後見などの権利擁護の充実
- 5 虐待を防止する制度や取組の充実
- 6 高齢者の就業や起業、NPO活動などへの支援の充実
- 7 介護に関する相談窓口や相談体制の整備
- 8 在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実
- 9 特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備
- 10 高齢者に配慮した優良賃貸住宅などの住宅整備の促進
- 11 在宅で介護する家族に対する支援の充実
- 12 利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供
- 13 病院や診療所などの医療機関の充実
- 14 その他()

以降の質問については、

調査対象者ご本人を介護しているご家族の方がお答えください。

なお、介護をしている方がいない場合は、回答不要です。

【主な介護者】

問47 介護されている高齢者(以下、「要介護者」)からみた、主に介護をしている人(以下「主な介護者」という。)の続柄は、どれにあたりますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 夫 | 2 妻 |
| 3 子 | 4 子の配偶者 |
| 5 孫 | 6 兄弟・姉妹 |
| 7 その他の親族() | 8 親族以外の者 |

問48 主な介護者の性別をお聞かせください。

いずれか一つに○。

- | | | |
|-----|-----|-------|
| 1 男 | 2 女 | 3 無回答 |
|-----|-----|-------|

問49 主な介護者の年齢は、どれにあたりますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|----------|----------|
| 1 20歳未満 | 2 20～29歳 |
| 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| 5 50～59歳 | 6 60～69歳 |
| 7 70～79歳 | 8 80歳以上 |

問50 主な介護者は、要介護者と同居していますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 同居している | 2 同居していない |
|----------|-----------|

問51 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年間の間に仕事を辞めた方はいますか。(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。) ※自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

いずれか一つに○。

- 1 主な介護者が仕事を辞めた
- 2 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた
- 3 主な介護者が転職した
- 4 主な介護者以外の家族・親族が転職した
- 5 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
- 6 わからない

問52 主な介護者の現在の勤務形態はどれにあたりますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 フルタイムで働いている | } ⇒ 副問1・2・3 へ |
| 2 パートタイムで働いている | |
| 3 以前は働いていたが、介護をきっかけに仕事を辞めた | } ⇒ 問53 へ |
| 4 以前から働いていない | |

※「パートタイム」とは、1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

副問1 【問52で「1、2」と答えた方におたずねします】

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 特に行っていない
- 2 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら働いている
- 3 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
- 4 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
- 5 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている

副問2 【問52で「1、2」と答えた方におたずねします】

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
- 2 介護休業・介護休暇等の制度の充実
- 3 制度を利用しやすい職場づくり
- 4 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)
- 5 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)
- 6 仕事と介護の両立に関する情報の提供
- 7 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
- 8 介護をしている従業員への経済的な支援
- 9 その他()
- 10 特にない
- 11 主な介護者に確認しないと、わからない

副問3 【問52で「1,2」と答えた方におたずねします】

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

いずれか一つに○。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 問題なく、続けていける | 2 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3 続けていくのは、やや難しい | 4 続けていくのは、かなり難しい |

問53 主な介護者は現在、子育てをしていますか。

あてはまるものすべてに○。

- | | | |
|-----------------|-----------|---------|
| 1 未就学児の子育てをしている | } ⇒副問1・2へ | } ⇒問54へ |
| 2 小学生の子育てをしている | | |
| 3 中高生の子育てをしている | | |
| 4 子育てはしていない | | |
| 5 その他() | | |

副問1 【問53で「1,2,3」と答えた方におたずねします】

あなたはふだん、子育てと介護(ダブルケア)に対して負担を感じていますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 非常に負担を感じる | 2 やや負担を感じる |
| 3 どちらともいえない | 4 あまり負担を感じない |
| 5 全く負担を感じない | |

副問2 【問53で「1,2,3」と答えた方におたずねします】

ダブルケアが始まる前と後の就業状況に変化はありましたか。

あてはまるものすべてに○。

- | | | |
|------------------|----------|---------|
| 1 仕事を辞めた | } ⇒副々問2へ | } ⇒問54へ |
| 2 業務量や労働時間を減らした | | |
| 3 変わらない ⇒副々問1・2へ | | |
| 4 業務量や労働時間を増やした | } ⇒副々問2へ | |
| 5 仕事を始めた | | |
| 6 もともと働いていない | | |
| 7 その他() | | |

副々問1 【問53の副問2で「3」と答えた方にお尋ねします】

就業状況が変わらなかった理由はなんですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 子どもが育児サービス(保育所・放課後児童クラブ等)を利用している
- 2 被介護者をデイサービス等に通所させている
- 3 民間企業・団体等の支援(家事代行サービス等)を利用している
- 4 勤め先の制度(テレワーク等の柔軟な働き方を可能にする仕組み)がある
- 5 子育てや介護との両立が可能な勤務条件(労働時間等)で働くことができる
- 6 家族(配偶者や親族等)の支援がある
- 7 居住する地域の支援(コミュニティの子育てシェア等)がある
- 8 仕事を行うことに対し、被介護者の理解がある
- 9 周囲(家族等)が、子育てや介護よりも仕事を優先すべきと考えている
- 10 勤め先の人員体制や業務量を考えると、周囲に迷惑がかかる
- 11 業務量や労働時間等を減らすことにより給料等が減額になると困る
- 12 その他()

副々問2 【問53の副問2で「1,2,3,4,5」と答えた方にお尋ねします】

今後どのような働き方(働かない場合も含めて)をしたいと考えていますか。

いずれか一つに○。

- 1 今後も同じ仕事(職種・職場)で働き続けたい
- 2 労働時間が短いなど、より負担の軽い仕事(職種・職場)に変えたい
- 3 給料が高いなど、より経済的条件のよい仕事(職種・職場)に変えたい
- 4 仕事を辞めたい

【介護の状況】

問54 主な介護者がこれまで介護をしてきた期間は、どのくらいですか。

いずれか一つに○。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 1年未満 | 2 1年～3年未満 |
| 3 3年～5年未満 | 4 5年～10年未満 |
| 5 10年以上 | |

問55 主な介護者が現在介護をするうえで困っていることはありますか。

いずれか一つに○。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 ある⇒副問1へ | 2 ない⇒問56へ |
|-----------|-----------|

副問1 【問55 で「1」と答えた方におたずねします】 困っていることは何ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 精神的な負担感がある(将来に不安を感じる、相談相手がいない等)
- 2 身体的な負担感がある(疲労が蓄積している、睡眠不足等)
- 3 経済的な負担感がある(家計を圧迫している、貯金を切り崩している等)
- 4 介護を手伝ってくれる身近な存在がいない
- 5 利用できる社会資源がわからない
- 6 仕事や子育て等と介護の両立が困難である
- 7 介護や家事の方法がわからない
- 8 その他()

問56 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、お答えください。(現状で行っているか否かは問いません。)

あてはまるもの3つまで○。

- 1 日中の排泄
- 2 夜間の排泄
- 3 食事の介助(食べる時)
- 4 入浴・洗身
- 5 身だしなみ(洗顔・歯みがき等)
- 6 衣服の着脱
- 7 屋内の移乗・移動
- 8 外出の付き添い、送迎等
- 9 服薬
- 10 認知症状への対応
- 11 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)
- 12 食事の準備(調理等)
- 13 その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)
- 14 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
- 15 その他()
- 16 不安に感じていることは、特になし

問57 主な介護者が、介護のことで困ったときに相談する相手は、どんな方ですか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 家族や友人・知人
- 2 ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者
- 3 区役所や地域包括支援センターなどの行政関係者
- 4 民生委員・児童委員や福祉協力員などの地域の役員
- 5 勤務先
- 6 その他()
- 7 相談できる人はいない

問58 主な介護者が、介護をすることが困難な時、どのように対処されていますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 ショートステイやデイサービスなどの介護保険のサービスを利用している
- 2 他の家族に一時的にみてもらっている
- 3 近所の人や友人に一時的にみてもらっている
- 4 自分が無理をしてでも介護をしている
- 5 その他()

問59 主な介護者が感じている介護の負担感はどの程度ですか。

いずれか一つに○。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1 かなり負担である | 2 やや負担である |
| 3 それほど負担ではない | 4 負担ではない |

【高齢者虐待】

問 60 主な介護者が、要介護者への虐待に至る危険性を感じたことはありますか。

いずれか一つに○。

- 1 すでに虐待にあたる行為をしているのではないかと思う
- 2 今後、介護が続けば、虐待などに至る危険性があると思う
- 3 虐待などに至る危険性はない
- 4 その他()

問 61 高齢者への虐待は、どのようなことが要因で起こると思いますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 高齢者本人に認知症による徘徊、幻覚、妄想、不潔行為などの症状があるため
- 2 高齢者本人の身体的な介助に手間がかかる
- 3 高齢者本人の性格や人格に問題がある
- 4 介護者の介護疲れや精神的なストレス
- 5 介護者の家族や親族などの協力がなく、一人で抱え込んでしまっている
- 6 介護者に認知症や介護に対する理解や知識が不足している
- 7 家庭内の人間関係に過去から問題があった
- 8 介護者自身が経済的に自立しておらず、高齢者本人の収入で生計をたてている
- 9 その他()

【高齢者に対する福祉施策】

問62 福祉に関する相談窓口がどこにあれば、気軽に立ち寄れますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 市役所・区役所
- 2 市民センター
- 3 駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所
- 4 勤務先
- 5 子育て関連施設
- 6 介護関連施設
- 7 その他()

問63 介護や福祉の相談にメールや SNS を利用したいですか。

いずれか一つに○。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 メールや SNS の使い方がわからない

問64 今後、さらに高齢化が進んでいく中で、北九州市はどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。

あてはまるものすべてに○。

- 1 健康づくりや介護予防に関連した事業の充実
- 2 高齢者の生きがいづくりや仲間づくりの支援・社会参加の促進
- 3 高齢者の就業や起業、NPO活動などへの支援の充実
- 4 認知症高齢者対策の充実
- 5 財産管理や成年後見などの権利擁護の充実
- 6 虐待を防止する制度や取組の充実
- 7 介護に関する相談窓口や相談体制の整備
- 8 在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実
- 9 特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備
- 10 高齢者に配慮した優良賃貸住宅などの住宅整備の促進
- 11 在宅で介護する家族に対する支援の充実
- 12 利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供
- 13 病院や診療所などの医療機関の充実
- 14 その他()

ご協力ありがとうございました。
調査票は同封の返信用封筒に入れ、
切手を貼らずに12月31日(水)までに投函してください。